

はじめに

hajime-ni

一般的な歯科医院では、毎日慌ただしいなか、多くの患者の診療に携わり、そこで使用した器具・器材、ユニットや待合室、時には化粧室の管理を院内のスタッフがを行っています。特殊な施設以外では、専門の洗浄、滅菌、環境管理の人材を設けている医院は、少ないのではないのでしょうか。

歯科診療は、細菌が多く存在する口腔内で主に行われ、鋭利な器具を使用し、唾液や血液に接触して、処置内容によってはそれらの飛散があります。「針刺し事故」、「患者から医療従事者への感染」、「医療従事者から患者への感染」、「患者間の感染」など、常にこのような危険と隣り合わせであることを、全スタッフが自覚したうえで、診療に従事しなければなりません。

残念ながら、わが国ではまだ、すべての患者の処置にディスポーザブル手袋を着用し、患者ごとに交換するといった感染管理の基本中の基本が、4割弱しか行われていないという報告（平成24年7月3日付日本歯科新聞）があります。感染管理の対応について院内でルールを決め、日常で徹底することはそれほど大袈裟なものではありません。

本書では、なるべく時間や経費をかけずに、的確に感染管理をするためにはどうしたらよいか、テーマごとにまず疑問を投げかけ、その後に解説やアドバイスというかたちでまとめました。正しい器具・器材の取り扱い、管理の方法、自分や患者、スタッフの身を感染から守るための基本事項について、いま一度確認し、院内で手帳のようにご活用いただければ幸いに存じます。

発刊にあたり、デンタルダイヤモンド社編集部 木下裕介様、保坂奈央様、訪問歯科診療でご指導をいただきました馬見塚デンタルクリニック 馬見塚賢一郎先生、終始ご指導をいただきました小宮山彌太郎先生に厚く感謝を申し上げます。

2016年4月

ブローネマルク・オッセオインテグレーション・センター

山口 千緒里